

光明台中学校区 未来の学校づくりニュース



令和8年
7月

No.3

6月6日(土)に3回目の意見交換会を開催しました。
今回から北小学校区、南小学校区を統合して開催！

意見交換会の主な内容

- なぜ施設一体型義務教育学校の導入をめざすのか
- 和泉市の施設一体型義務教育学校の校舎や設備について
- 施設一体型義務教育学校の跡地活用状況について
- グループワーク

※資料はこちら



なぜ施設一体型義務教育学校の導入をめざすのか

小学校の統合でも人数の確保にはつながりますが、施設一体型義務教育学校とすることで、より「小中一貫教育」の効果が高まります！

施設一体型義務教育学校になると



より多くの教員による
9年間を見通した教育

教科担任制の授業
を導入しやすい

柔軟な教育
課程編成

読み聞かせなど
異学年交流が促進

教員間の共通理解
が図られやすい

下級生の上級生への憧れ、
上級生の下級生への見守り
の意識の高まり

子どもの実態に合わせた、
柔軟でわかりやすい授業

和泉市の施設一体型義務教育学校の校舎や設備について

富秋学園や槇尾学園の施設や設備を紹介しました。

【富秋学園】



交流ラウンジ(イメージ)



- ・2階と3階の中央に配置
- ・オープンな空間で人と人をつなぐ交流の場に
- ・広い空間での学習や発表も可能

【槇尾学園】



メディアセンター



- ・学校の中心スペースにオープンな形で配置
- ・様々な異学年交流の場を創出

多目的室



- ・地域開放など、様々な目的に利用可能
- ・圧迫を感じないよう他の教室より天井高を確保

グループワークでの主な意見

児童生徒数が減少すると、クラス替えができず、教員数や専科の教員の確保も困難となるため、統合は必要。



単学級になると、加配教員が減少するなどデメリットが多い。

小学生に教科担任が増えると、先生と児童との深い関わりが失われないか。
→施設一体型義務教育学校でも、低学年は担任がしっかりと子どもと関わり、子どもの発達状況に応じて対応している。

小・中学校が同じ場所にあれば、先生同士で子どもの情報をしっかりと共有してもらえる。

魅力的な「学校づくり」と「まちづくり」をセットで考えてほしい。

良い学校にするため、地域が1つになり地域コミュニティを高めていきたい。

通学距離が2kmを超える児童には、バス通学の対応を検討することであるが、2kmを超えずとも、アップダウンのある場所から通う子に何かしらの対応ができないか。

通学距離が2kmを超えていても、体力向上という面では歩くのもいいのではないか。

子ども達にとってよりよい学校づくりをすることが、まちおこしに繋がる。

就学前の保護者向けに情報提供していく必要がある。

次回の予定について

今回の意見交換会で、施設一体型義務教育学校を導入する方向について整理できたため、次回は、学校の建設場所や跡地活用について詳しく取り上げていきます。

ニュースレターをメールで配信します！

ニュースレターの配信を希望される方は、右の二次元コードを読み取っていただき、お名前、「ニュースレター希望」と記載のうえ、メールを送信してください。



(問合せ先) 和泉市教育委員会事務局
教育部 教育総務課

(TEL) 0725-99-8196

(E-mail) komyodai@city.osaka-izumi.lg.jp